

目的・目標

本プロジェクトを通じて、若手ダンサー・若手スタッフの育成を加速させることで、新たに「世界五大バレエ団」の一角を占めることを長期目標として掲げる。これまで日本のバレエはダンサーのスキルの高さから個人の海外進出は進んでいるが、総合芸術としての海外進出は進んでいないため、以下で記載する「かぐや姫」を活用しながら日本のバレエの世界におけるプレゼンス向上に努める。

概要

1年目は海外指導者の招聘等を通じて、公演を通じた若手育成を強化する。2年目には、海外公演を通じたOJTにより海外公演開催のノウハウ継承や継続的な海外視察によるコネクションの強化を通じた若手スタッフ・ダンサーの育成を行う。3年目は3年間の集大成として、海外劇場での「かぐや姫」（全幕）の初演を若手クリエイター中心に開催し、若手の評価につなげる。

3年目までの取組

日本のバレエを総合芸術として海外展開するにあたっては、日本ならではのバレエ作品の存在が不可欠である。この点、オールジャパンチームで制作し2023年に全幕初演した「かぐや姫」は、日本らしさをふんだんに盛り込みつつ、テーマの普遍性で世界展開にふさわしい。話題性をもって世界初演ができるよう準備を重ね、2026年の海外初演を目指すとともに、この過程を通じて若手クリエイター等の指導を加速させる。



5年目までの取組



2026年の「かぐや姫」の世界初演を成功させることによって、欧州における日本のバレエのプレゼンスを一定程度引き上げることができると考えているため、第2期についてはこの話題をベースに欧州における若手クリエイター等の海外評価向上のためのプロモーションを続ける。また、これまで海外公演を実施していなかった新たな地域での公演を通じて世界展開を継続し、公演を通じた実践と指導者招聘の二軸で育成強化に努める。

中核となるクリエイターやアドバイザー

【中核となるアドバイザー】
高橋典夫（当財団専務理事）

- 1976年に当財団の前身に参加して以来当財団業務に幅広く従事。
- 2003年からは事務局長に就任。故・佐々木忠次とともに世界中の劇場関係者とコネクションを持つ。
- 2004年より当財団理事、2016年専務理事に就任し、「かぐや姫」初演にも事務局代表として尽力。

（分野・ジャンル）
・舞踊(バレエ)

（渡航先の国・地域）

・フランス(2026年度・予定)

（国内外の連携・協力体制）

・海外歌劇場(パリ・オペラ座ほか)・海外アーティスト(ジル・ロマン、ジル・イゾアールほか)・各国大使館とのネットワーク

成果目標（見込）	目標値
企画段階から海外公演等までに登用される若手クリエイター等の数	25人
国内外の団体・企業等との連携数（連携団体数、事業提携数、拠点形成数など）	27件
プロジェクトに関わる海外アーティスト・キュレーター等の数	6人
国内外で展開される公演・展示等の数	30回
国内外で展開される公演・展示等の入場者数	43,156人

育成対象者：25人

- ・ダンサー：様々な階級のダンサーが集まって作品を構成しているため、育成カテゴリーを4つに分けて相応しいダンサーの人選を行った。
- ・スタッフ：業務経験が1年以上あり、スキル・スタンス双方の観点で今後中核を担う者として推薦があった者を対象とする。

【補足資料】

